

令和6年能登半島地震 JDAT 活動報告書



一般社団法人 宮城県歯科医師会

目次

1. まえがき

会長 細谷 仁憲

2. 宮城県歯科医師会としての対応

3. 活動報告

- (1) 第1陣 (2/5-2/7) 志賀町
- (2) 第2陣 (2/15-2/18) 穴水町
- (3) 第3陣 (2/19-2/22) 穴水町

4. JDAT 活動報告会・災害歯科保健に関する講演会とシンポジウムの開催

* 事後アンケート集計

5. 第20回警察歯科医会全国大会でのポスター発表

6. 課題

7. あとがき

副会長 佐藤 真奈美

1. まえがき

一般社団法人宮城県歯科医師会 会長
大規模災害対策本部 本部長

細 谷 仁 憲

令和6年1月1日に発災した「令和6年能登半島地震」に対して、本会は日本歯科医師会からのJDATチーム派遣の要請に対応して、被災地へ3チームを派遣（本会9名、県歯科衛生士会2名）しました。派遣活動後は「JDAT活動報告会・災害歯科保健に関する講演会とシンポジウム」の開催（会場とオンラインでのハイブリット開催、県内外から95名参加、参加者にアンケート実施）、第20回警察歯科医会全国大会において本県のJDAT活動に関するポスター発表等の活動を行って参りました。

この度、一連の活動が一段落しましたことから、今般の一連の活動報告と派遣活動を体験して今後の大規模災害対策として反省、改善すべきことも抽出した報告書をまとめましたので、参考にしていただければと思います。

日本は、何処においても地震をはじめとする大規模災害が発災してもおかしくない状態にあるといえます。また南海トラフ巨大地震、首都直下大地震等の発災が危惧されています。今後は本会の大規模災害対策本部において、今般のJDAT活動から、今後の大規模災害対策として必要な課題を整理して取り組んでいきたいと考えています。

会員等の皆様におかれましては、ご閲覧していただき、ご質問、要望、提言等がありましたら遠慮なくご意見をお寄せ下さい。

結びに、派遣体制が十分でなかった中、派遣チームに参加していただいた11名の皆様、今般の一連の活動においてご指導、ご協力、ご支援をいただいた中久木康一先生（東北大学大学院歯学研究科）に対しまして、心からお礼と感謝を申し上げます。

2. 宮城県歯科医師会としての対応

常務理事（会計・総務）	宮澤 幸久
大規模災害対策本部 総務情報班 班長	
常務理事（地域保健）	根本 充康
大規模災害対策本部 歯科保健医療班 班長	
常務理事（在宅・障がい児（者））	相澤 俊彦
大規模災害対策本部 歯科保健医療班 班長	

JDAT 創設時に登録チームリストの提出を日本歯科医師会より求められたが、理解が追いつかない状態を取り敢えず的なチーム登録だったこともあり、今回の派遣要請に対しては迅速なチーム選出ができず、結果的には役員中心によるチーム選出となってしまった。また宮城県歯科衛生士会へもチーム参加協力を要請したが、所属施設長の許可を得られるか否かの問題があり派遣3チームの内、衛生士が参加できたのは1チームだけであった。

初の JDAT 県外派遣要請でもあり、その対応に日歯も宮城県歯科医師会も多少戸惑い感があった事実は否めない。今後宮城県歯科医師会としては、災害歯科保健医療チーム養成の為の研修会を県内各地区歯科医師会において開催し、今後起きうる県内外の災害に整然と対応できる実践的なチーム体制を整えていくことを課題としたい。

1月1日 16時10分頃
「令和6年能登半島地震」発災 石川県鳳珠郡穴水町北東42kmを震央にマグニチュード7.6地震発生 石川県志賀町、輪島市、七尾市、珠洲市、能登町、穴水町で最大震度7を観測 【災害救助法】の適用
1月2日 8時37分
日本歯科医師会より都道府県歯宛メールを受信 「令和6年能登半島地震災害対策本部（仮称）の設置等について」 ・1月1日午後4時30分に日本歯科医師会に対策本部を設置、被災情報の収集と関係機関との連絡調整を図る。
1月5日 10時53分
日本歯科医師会より都道府県歯宛メールを受信 「令和6年能登半島地震災害における支援について」 ・被災地の石川県歯は二次被害の危険性が高く、外部からの人的支援を受け付ける状況にない。
1月13日 16時42分
日本歯科医師会より都道府県歯宛メールを受信 「令和6年能登半島地震への災害歯科支援チームの派遣について」 ・石川県歯科医師会より災害歯科支援チームの派遣要請。1月13日から派遣終了までの間の随時受付を開始、都道府県歯においてチーム編成依頼
1月13日 22時21分

<p>日本歯科医師会より都道府県歯宛メールを受信 「被災地への歯科医療従事者の派遣について（依頼）」 ・厚生省から日本歯科医師会へ日本災害歯科支援チーム等の派遣協力依頼</p>
<p>1月15日</p>
<p>宮歯歯科保健医療班にて JDAT チーム編成・登録調整開始、各陣に研修修了者を最低1人を含む編成方針</p>
<p>1月16日</p>
<p>歯科保健医療班長より、大規模災害対策本部役員に石川県への派遣チーム編成について調整連絡メール ・第1陣は役員で対応すること等 事務局より各地区歯科医師会へ登録されている JDAT メンバーへの要請を連絡、暫定的に1月28日以降の日程で確認</p>
<p>1月17日 16時43分</p>
<p>日本歯科医師会より都道府県歯宛メールを受信 「令和6年能登半島地震への災害歯科支援チームの派遣について（その2）」 ・チーム派遣に関しての注意・連絡事項 § チーム登録の際には派遣可能期間を示すこと、これを含め日歯が調整し、派遣依頼を行う § 派遣前夜に石川県歯を交えてオンライン伝達を行う § 原則として派遣当日は金沢市の石川県歯会館に参集 § チーム活動に係る人件費は災害救助法が適用。 ただし、旅費、宿泊費等の給付範囲は調整中 § 宿泊先や車両は各自で調達することが当面は必要 通行許可証は石川県歯会館で手渡し § 歯科支援活動の器材は、現地にも用意されているが携行することが望ましい (携行器材の例：マスク、グローブ、紙エプロン、紙コップ、デンタルミラー、探針、ピンセット、手指消毒剤)</p>
<p>1月17日</p>
<p>総務情報班長から日歯地域保健課へ問合せ ・災害派遣歯科医師登録について 派遣先、支援内容、装備、材料、準備品に関して 歯科衛生士、歯科技工士動向の際の取り扱い（傷害保険、派遣時の身分） (日歯回答) 歯科衛生士、歯科技工士を含め傷害保険の対象となること、費用支弁は災害救助法の対象となること、現時点においては派遣チームに必要な装備、備品は持参する形となること、現地の移動手段が確保できない状況にあり車両での現地入りが求められていること、口腔ケアグッズは石川県歯に備蓄があること、</p>
<p>1月18日</p>
<p>メディアファクス「JDAT、石川県外から第1陣 日歯、18日から派遣」情報共有</p>

<p>・17日、日歯は石川県外から災害歯科支援チームJDAT第1陣を18日から21日まで派遣。派遣は福島、愛知、富山、福井、長野の5県から6チーム20人</p>
<p>1月19日</p>
<p>歯科衛生会へ日本災害歯科支援チーム「宮城県チーム」の編成依頼 (歯科衛生士会加藤会長回答)</p> <p>派遣対応が可能な歯科衛生士のリストは、会員へ連絡しながら随時作成していく形になる。</p>
<p>1月22日</p>
<p>・歯科保健医療班から総務情報班へ、派遣チーム編成の報告</p> <p>①2月6日(火)、7日(水)(2日間活動可能)歯科医師3名 ②2月16日(金)、17日(土)(2日間活動可能)歯科医師3名 ③2月20日(火)、21日(水)(2日間活動可能)歯科医師3名</p> <p>・歯科衛生士会に2月16日—17日の支援活動、2月20日—21日の支援活動について参加できる歯科衛生士を調整依頼</p>
<p>1月23日</p>
<p>・日本歯科医師会主管課へ派遣対応可能日を明記したチーム編成を報告</p> <p>①2月6日(火)、7日(水)(2日間活動可能)歯科医師3名 ②2月16日(金)、17日(土)(2日間活動可能)歯科医師3名 ③2月20日(火)、21日(水)(2日間活動可能)歯科医師3名</p> <p>※②、③については歯科衛生士を調整中であることを付記</p> <p>・河瀬聡一郎先生に関して石巻市長宛、JDAT要員への参加要請 ・派遣チーム宿泊先として「長楽寺」(中能登町)へ施設借用依頼(5千円一名・一泊)</p>
<p>1月24日 12時56分</p>
<p>・日本歯科医師会主管課へ派遣対応可能日を明記したチーム編成を更新報告 (日歯に連絡している派遣可能チーム)</p> <p>①移動日(2/5)、2月6日(火)、7日(水)(2日間活動可能)、移動日(2/8) 歯科医師3名 ②移動日(2/15)、2月16日(金)、17日(土)(2日間活動可能)、移動日(2/18) 歯科医師3名 ③移動日(2/19)、2月20日(火)、21日(水)(2日間活動可能)、移動日(2/22) 歯科医師3名 ④移動日(2/23)、24日(土)(1日間活動可能)、移動日(2/25) 歯科医師3名</p> <p>※チーム③と④は歯科衛生士を帯同できるよう調整中と参考連絡。 ※日歯から派遣期間確定(派遣依頼)が届きしだい、県歯科衛生士会に当該期間に支援出動可能な歯科衛生士をアサインしていただく予定</p>
<p>1月29日</p>
<p>日歯地域保健医療課より、JDAT支援チーム派遣の事前連絡(電話)</p> <p>2月6日、7日を活動期間とするチーム派遣を依頼する。派遣地域については調整中</p>
<p>1月30日</p>
<p>日歯地域保健医療課より、JDAT支援チーム派遣の事前連絡(電話)</p> <p>2月16日、17日を活動期間とするチーム派遣を依頼する。派遣地域については調整中</p>

<p>支援チームの派遣について（日歯地域保健課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣前週に行動予定表、車両通行許可証がデータで派遣者に届く ・活動は現地行政の調整本部に参集し、指示の下で行う。 ・石川県歯会館への参集は必須ではない。
1月31日
日歯地域保健医療課より、宮城県 JDAT（第1陣）の派遣地域【志賀町】決定の連絡
2月1日
愛知県歯から志賀町で支援活動を先行した愛知県 JDAT から報告書等資料提供
2月2日
長野県歯から志賀町で支援活動を先行した長野県 JDAT から報告書等資料提供
2月2日
日歯地域保健課より 2/5 からの支援活動について、「都道府県 JDAT 活動の流れ、伝達事項」の連絡を受ける。
2月5日から2月7日
宮城県 JDAT 第1陣 志賀町での歯科支援活動 根本常務理事、山田常務理事、関監事 3名
2月6日
宮城県 JDAT 第1陣（根本常務理事、山田常務理事、関監事）支援活動 10:35～11:15 熊野交流センター避難所（6名） 11:35～12:00 富来防災センター避難所（20名） 13:00～14:10 富来活性化センター避難所（15名）
2月7日
宮城県 JDAT 第1陣（根本常務理事、山田常務理事、関監事）支援活動 09:50～10:00 福浦工芸工房避難所（2名）（2月10日閉所予定） 10:25～10:40 領家コミュニティセンター避難所（10名） 11:00～11:20 稗造防災センター避難所（12名） 13:00～13:20 西浦防災センター避難所（8名）
2月7日
日歯地域保健課より、宮城県 JDAT（第2陣）の派遣地域【穴水町】決定の連絡 日歯地域保健課より第3陣（2/19-2/22）、第4陣（2-23-2/25）の派遣準備依頼 歯科衛生士会へ第3陣帯同衛生士調整を依頼
2月8日
日歯地域保健課より第4陣（仙歯班）派遣登録のキャンセル連絡 宮城県 JDAT は下記の予定 第1陣（2/5-2/7）志賀町 根本充康、山田真、関直和 第2陣（2/15-2/18）穴水町 河瀬聡一郎、三宅宏之、相澤俊彦、歯科衛生士2名 第3陣（2/19-2/22）穴水町（予定） 佐藤真奈美、玉澤茂、篠原誠
2月11日
歯科衛生士会から連絡 ・宮城県 JDAT 第3陣への歯科衛生士帯同困難
2月13日
日歯地域保健課から第3陣の活動地域決定連絡（穴水町）

宮城県 JDAT 第3陣の先生へ連絡
2月15日から2月18日
宮城県 JDAT 第2陣 穴水町での歯科支援活動 相澤常務理事、三宅業務執行理事、河瀬聡一朗会員 歯科医師3名 人見早苗、加藤みゆき 歯科衛生士2名
2月16日
宮城県 JDAT 第2陣（相澤常務理事、三宅業務執行理事、河瀬聡一朗会員、人見早苗 歯科衛生士、加藤みゆき歯科衛生士）支援活動 12:00～14:00 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター（10名） 14:00～16:00 石川県精育園（5名）
2月17日
宮城県 JDAT 第2陣（相澤常務理事、三宅業務執行理事、河瀬聡一朗会員、人見早苗 歯科衛生士、加藤みゆき歯科衛生士）支援活動 10:00～11:00 河内集会所（1名） 11:30～12:30 旧兜小学校（1名） 14:00～15:00 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター（9名）
2月19日から2月22日
宮城県 JDAT 第3陣 穴水町での歯科支援活動 佐藤副会長、篠原常務理事、玉澤茂会員 歯科医師3名
2月20日
石川県歯、日歯、長野県歯へ宮城県 JDAT 第2陣の活動報告をメール送信 ・2/16 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター、石川県精育園 ・2/17 河内集会所、旧兜小学校、青山彩光苑穴水ライフサポートセンター
2月29日
「令和6年能登半島地震への災害歯科支援チームの派遣終了について」（2/29） ・石川県歯科医師会より3月10日をもって災害歯科支援チームの派遣要請の終了 ・今後は富山県、福井県歯科医師会の協力の下に石川県歯科医師会で対応 （JDATに関して） ・3/11の週から近県である富山県及び福井県歯科医師会との協力の下に、石川県歯科医師会にて珠洲市、輪島市を中心に対応 ・歯科保健活動が基本であるので、歯科衛生士の帯同が望まれる。 ・珠洲市では歯科診療所5か所全てが稼働できてない状況 ・輪島市では11 歯科診療所のうち6か所が一部制限付きで稼働 ・能登町では歯科診療所5か所がすべて稼働 ・穴水町では歯科診療所4か所すべてが一部制限付きで稼働 「令和6年能登半島地震災害への義援金（第2次）の受付延長について」（2/29） ・義援金第2次受付期間の当面の延長連絡
3月1日
総務情報班より地区歯科医師会へ3月10日をもって災害歯科支援チームの派遣要請終了をメール連絡

3. 活動報告

令和6年2月、宮城県歯科医師会は宮城県歯科衛生士会とともに能登半島地震被災地に災害歯科支援チーム（JDAT）を3チーム派遣し、志賀町と穴水町にて活動した。必要とされた支援は、市町村により、避難所等により、そして時期により相違があった。

日付	From→To	派遣調整内容
1月13日	日歯→県歯	「被災地への歯科医療従事者の派遣について(依頼)」
1月15日		宮歯歯科保健医療班にてチーム編成・登録調整開始、各陣に研修修了者を最低1人を含む編成方針
1月16日	宮歯→地区歯	各地区歯科医師会へ登録されているJDATメンバーへの要請を連絡
1月17日	日歯→県歯	「令和6年能登半島地震への災害歯科支援チームの派遣について(その2)」
	宮歯→日歯	歯科衛生士・歯科技工士の保険などを確認
1月19日	宮歯→宮衛	県歯科衛生士会に派遣調整を依頼
1月23日	宮歯→日歯	歯科医師3名ずつで3陣を登録(2/6-7, 2/16-17, 2/20-21)
1月24日	宮歯→日歯	歯科医師3名ずつで4陣を登録(2/6-7, 2/16-17, 2/20-21, 2/24)
1月29日	日歯→宮歯	第1陣(2月6・7日活動)派遣決定
1月30日	日歯→宮歯	第2陣(2月16・17日活動)派遣決定
1月31日	日歯→宮歯	第1陣の派遣先が志賀町に決定
2月2日	宮衛→宮歯	第2陣への歯科衛生士帯同決定
2月7日	日歯→宮歯	第2班の派遣先が穴水町に決定
2月8日	日歯→宮歯	第3陣の派遣が決定、第4陣のキャンセルが決定
2月13日	日歯→宮歯	第3陣の派遣先が穴水町に決定

(1) 第1陣 (2/5-2/7) 志賀町 ○根本 充康、山田 真、関 直和

第1陣スケジュール(志賀町)

2月6日(火)

- 10:35～11:15 熊野交流センター〈避難所〉(6名)
- 11:35～12:00 富来防災センター〈避難所〉(20名)
- 13:00～14:10 富来活性化センター〈避難所〉(15名)

2月7日(水)

- 09:50～10:00 福浦工芸工房〈避難所〉(2名)(2月10日閉所予定)
- 10:25～10:40 領家コミュニティセンター〈避難所〉(10名)
- 11:00～11:20 稗造防災センター〈避難所〉(12名)
- 13:00～13:20 西浦防災センター〈避難所〉(8名)



・ 支援先のインフラ等の情報

石川県歯より事前に大まかに把握。道路の状況も実際に通行し確認しないと通行可能かどうかわからない。水道や電気についても同様に現地で確認を要した。

・ 地名

県外からの支援には地名の読み方が難しい。市町村関係者との打合せや、住民の会話にも地名が出てくることがあるので、あらかじめ情報を得ておくことが大切である。位置関係も頭の中に入れておくべき。

・ 現地本部から支援先までのルート

地図で確認が必要だが、オンラインマップでも情報は不十分。通行可能か現地で確認。訪問する順番も道路状況により計画。



・ 避難所での支援(志賀町)

支援物資は十分に行き届いていた。上水道が未復旧のところでは、ある程度水は確保できていた。しかし復旧済でも下水の問題があり、水の仕様が制限されていた。

十分な飲料水、仮設トイレも確保されていた。

被災者のプライバシーに関しても、避難所ごとに異なる。パーティションで区切られているところもあれば、まったくないところもある。集落ごとの結束が強いため、避難所の設置に関して苦労もあるようだった。

・ 歯科支援

避難者はほぼ高齢者、支援は主に聞き取りとなった。被災者と目の高さを合わせることで、思いや考えを引き出すことができた。

食に関して、保存の効くものがほとんどであるが、地域の住民により持ち寄ったものが提供されているところもあった(フルーツ、汁物等)。

歯科関連の支援物資は、ほぼ行き届いていた。しかし、倉庫にしまったままのところもあったので、必要と思われるものは、直ちに使用できるよう、見えるところに陳列した。

義歯清掃関連の材料の使用法がわからず、説明を要するものがあった。(水の使用が制限されているため、水を必要としない清掃関連の使用法がわからない)



・ まとめ

できるだけたくさんの人を見て欲しいので、時間帯を指定される場合もある。

歯科アセスメント票がどの程度活用されたのか。歯科支援の頻度は避難所ごとに週1回が基本となっていた。前回の支援のアセスメント票や報告書を参考にできたのは、次の支援につながると思う。



歯みがき、お口のケアはあなたの命を守ります！

<p>肺炎を防ぐために歯みがきを！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お口が清潔でないと細菌が繁殖し、肺炎になりやすく、全身の病気の悪化につながります ・高齢者は特に注意が必要です 	<p>入れ歯をきれいにして肺炎を防ぎましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お口を清潔に保つには入れ歯のお手入れが大事です ・食後に入れ歯をきれいにしましょう ・寝るるときは入れ歯をはずしましょう
<p>ハブラシがないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食後に少量の水やお茶で口をすすぎます ・ハンカチやティッシュで歯の汚れをとるのも効果があります 	<p>だ液を出す工夫を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だ液はお口のなかをきれいに保つにはとても大切です ・舌の下、ほお、あごの下を手で押し、だ液を出します(だ液が出ずにはなりません)
<p>水が少ないときの歯みがき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約30mlの水を用意 ・水でハブラシをぬらして歯みがきします ・古い歯ブラシの汚れをティッシュでふきとります ・コップの水を少しずつお口に含み、かき出し、すすぎます ・液体ハブラシ、歯磨き粉があれば、水がなくても歯みがきができます ・古い歯もお口を清潔に保つのに効果的です 	

公益社団法人 日本歯科医師会
 監修：神戸学院大学附属神戸大学 白根健樹先生、滋賀大学 平井孝先生
 提供：一般財団法人 ワンスター財団、ワンスターグループ



(2) 第2陣 (2/15-2/18) 穴水町 ○相澤 俊彦、河瀬 聡一郎、三宅 宏之、
加藤 みゆき (宮城県歯科衛生士会会長)、人見 早苗 (宮城県歯科衛生士会副会長)

第2陣スケジュール(穴水町)

2月16日(金)

08:30 宿舎出発

11:00 保健医療福祉調整本部 打合せ

12:22~12:38 石川県精育園(障害者支援施設) (物資補給)

12:45~14:09 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター
(障害者支援施設) (9名 物資補給)

14:13~14:45 石川県精育園(障害者支援施設) (5名)

15:15~15:30 保健医療福祉調整本部 報告

2月17日(土)

10:00~10:20 河内集会所(避難所) (1名、物資補給)

11:28~12:25 旧兜小学校(避難所) (1名、物資補給)

13:45~14:45 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター(障害者支援施設) (6名、物資補給)



石川県精育園 (障害者支援施設)

※16日 AM : 物資補給

※16日 PM : 5名



青山彩光苑穴水ライフサポートセンター (障害者支援施設)

※16日 PM : 9名・物資補給 ※派遣者 : 16日に新型コロナウイルス抗原検査

※17日 PM : 6名・物資補給



旧兜小学校 (個室/簡易ベッド)

※17日 AM 1名・摂食嚥下機能診査と食支援



心がけたこと

- JDATの目的を再確認する
- チームで行動していることを意識し、チームの一員として、方針をよく理解し、行動する
- 記録を行う事
- 感染予防・健康管理
- 支援を行った避難所や施設での情報収集
- 支援が押しつけにならないようにする
- 継続した支援に繋がるよう物資の提供だけではなく、使用方法等について丁寧な説明を心がける

- ・ 人材

勤務先の理解、家族の理解が不可欠。遠方の支援となると3、4日はかかる。派遣要請で声掛けして支援活動可能な歯科衛生士は6名であった。

- ・ 引継ぎ

被災地は刻一刻と状況が変わっていることから、その状況に応じた活動を行えるよう情報伝達が必要。

- ・ 要配慮者

大規模災害の被災地での避難生活は中長期になる事が考えられるため、オーラルフレイルや摂食嚥下に関する支援の必要性。

- ・ 連携

誤嚥性肺炎高リスクな高齢者が避難所で生活しており、食事への配慮が困難。看護師も巡回のため見きれていない現状がある。

- ・ 安全確保

避難所の建物は安全とは言えず、建物が「危険」と振り分けされている避難所もある。

- ・ 感染対策

感染症流行下における感染症対策

(3) 第3陣 (2/19-2/22) 穴水町 ○篠原 誠、佐藤 真奈美、玉澤 茂

第3陣スケジュール(穴水町)

2月20日(火)

9:30 保健医療福祉本部

11:30 穴水総合病院 耳鼻科下出先生に面会

12:00 さわやか交流館プルート〈避難所〉

責任者より聞き取り、避難所や職員の様子や口腔ケアについて相談を受けた。高齢者の集まっている部屋でのアセスメント、相談。

13:30 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター〈障害者支援施設〉

6名検診と口腔ケアを行い3名歯科医院受診勧めた(物資補給)

15:30 保健医療福祉調整本部 報告

18:55 石川県歯科医師会 支援物資補給

2月22日(水)

10:20 さわやか交流館プルート〈避難所〉

責任者に要望された歯間ブラシを届け、他の避難所の情報や場所の情報提供をいただいた。

11:00 保健医療福祉本部 打合せ

11:30 向洋小学校〈避難所〉

アセスメントと相談

管理者は派遣の静岡県職員。お昼は避難者手作りの暖かい汁物と煮物3品が提供されていた。ご飯は暖かい支援物資のパックご飯。

13:00 旧兜小学校〈避難所〉

自衛隊常駐する大規模避難所だが人数は60名ほどに減少し日中は高齢者7、8名のみ。第2陣から引き継がれた方は、病院通院のため不在。

15:00 保健医療福祉調整本部 報告

15:30 穴水総合病院耳鼻科下出先生に報告

- **石川県歯科医師会前会長のお話**

2月19日に石川県歯科医師会に立ち寄った際に石川県歯科医師会前会長より発災時からの石川県内の状況や歯科の支援について詳しいお話を頂いた。その中で能登へ向かう道路の損壊が酷く、歯科の支援が軌道に乗るまで時間を要した状況が理解できた。

- **避難所の環境**

水道も場所によっては復旧している。復旧していないところは自衛隊による給水や入浴援助等の支援もある。しかし避難所外では自宅に戻っても4月以降も水道の復旧が見込めない地域もある。それでも帰宅したいという方もおり避難所を出てからの衛生状態に不安あり。

(発災半年過ぎた時点で住んでいる住居にて通水工事が行われておらず、トイレやお風呂が使えない住民も多数残っているという現実)

- **口腔衛生関係の支援物資**

概ね充足している避難所が多いが、スポットでは義歯洗浄剤や歯間ブラシ、義歯ケース等が不足していた避難所もあり定期的に補充の必要性あり。

- **支援の内容**

避難所においては一通りの支援が行き届いていると思われるが、避難が長期化すると体を動かさないことで身体的にもフレイルが進行し、オーラルフレイルも同時に進行していくことが懸念される。

また高齢者施設や障害者施設においても歯科受診の機会が益々減っており支援の手が必要な状況である。

- **歯科医療機関の状況**

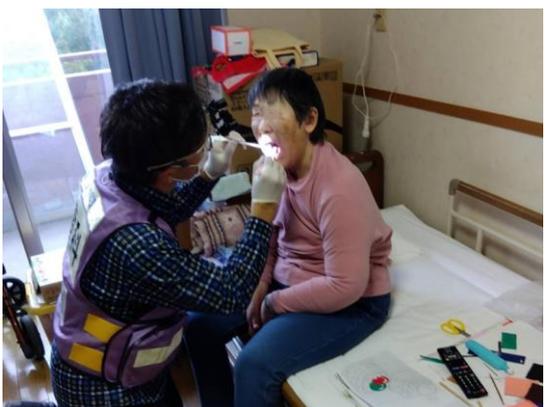
町内の3件の歯科医院もまだ通常診療とは言えないが、徐々に治療が可能な状況になっている。

- **耳鼻科や歯科医師会以外の歯科支援団体との連携**

第2陣から穴水病院耳鼻科の医師との連携を図るよう引き継ぎがあり、支援前と支援終了後にコンタクトを取った。

その中で摂食嚥下に詳しい耳鼻科のドクターや歯科医師会から派遣される以外の歯科関連の支援団体とも連携を図ることで、早い段階からの確な支援を行うことができるのではとの提案があった。

また、発災直後の早い段階から避難所の高齢者のオーラルフレイルの状況を的確に把握でき、見守りが必要な方がピックアップできるのでは、とのアドバイスをいただいた。



4. JDAT 活動報告会・災害歯科保健に関する講演会とシンポジウムの開催

能登半島地震発生後の派遣要請・準備から派遣までの振り返り、および、JDAT の課題と連携のあり方、宮城県歯科医師会における災害対応体制の再検討まで、広範にわたるディスカッションを行った。

報告

第1陣 志賀町派遣チーム 班長 根本 充康
第3陣 穴水町派遣チーム 班長 篠原 誠
第2陣 穴水町派遣チーム 歯科衛生士 加藤 みゆき

講演

「令和6年能登半島地震におけるJDAT活動」
東北大学大学院歯学研究科特任講師 中久木 康一

シンポジウム

コーディネーター

中久木 康一（東北大学大学院歯学研究科特任講師）

シンポジスト

根本 充康（宮城県 JDAT 第1陣 班長）
相澤 俊彦（宮城県 JDAT 第2陣 班長）
篠原 誠（宮城県 JDAT 第3陣 班長）
加藤 みゆき（宮城県 JDAT 第2陣 歯科衛生士）



シンポジウムにおいては、質問などもとりあげ、下記の項目に関する意見交換が行われた。

- ✓ 活動に関する交通手段、交通規制に対する車輛の登録の方法。
- ✓ 歯科技工士の派遣。歯科技工士ができること。
- ✓ 歯科以外の職種の支援者との連携の実際。
- ✓ 被災地で、摂食・嚥下に関しては、どのように、どこまで介入が可能か。
- ✓ 同じ施設へ繰り返し「ラピッドアセスメントシート」を記載することの必要性
- ✓ 実際に支援活動に参加するにあたって、研修の成果を一番感じたこと。普段の研修で特に学んでおいたほうがよいこと。経験から、これからの研修に加えたいことや、伝えたいこと。
- ✓ 東日本大震災や令和元年台風19号という県内の対応の経験に対し、県外への派遣の経験における相違点や対応の工夫の経験。
- ✓ 高齢化や医慮過疎が進んできている地域の被災への対応。宮城県においても、都市部から離れれば能登半島同様の地域が存在する。経験から参考にすべき対策。
- ✓ 経験から、宮城県歯科医師会、もしくは、宮城県歯科衛生士会として修正すべき体制。
- ✓ 特に若手の人員の協力を求めることの必要性が示されていたが、それに対する対策。

参加者（県内）： 60名（実地参加21、オンライン参加39）

資格： 歯科医師43、歯科衛生士11、歯科技工士6

所属： 歯科医師会32、歯科衛生士会8、歯科技工士会3、東北大学・病院10、東北保健医療専門学校4、仙台歯科技工士専門学校3

参加者（県外）： 35名（オンライン参加）

資格と所属： 歯科医師20（歯科医師会16、大学2、病院1、行政1）、歯科衛生士10（歯科衛生士会6、行政2、その他2）、他職種5



令和6年能登半島地震に係る
宮城県JDAT活動報告会
災害歯科保健に関する講演会

報告
 第1陣 志賀町派遣チーム 班長 根本 充康
 第3陣 穴水町派遣チーム 班長 篠原 誠
 第2陣 穴水町派遣チーム 歯科衛生士 加藤みゆき

講演
 「令和6年能登半島地震におけるJDAT活動」
 東北大学大学院歯学研究科特任講師 中久木 康一

シンポジウム

質疑・コメント

日時 令和6年6月18日(火)19時~21時(予定)

場所 宮城県歯科医師会館 / Zoom Webinar配信



<https://x.gd/niphM>

参加申込みは、QRコードまたはURLから
 ご登録願います。登録と同時に、当日の参加
 URLなどがe-mail送信されます。

※ 会館での実地参加の場合も、参加登録をお願いします。

ご興味がある方はどなたでも
ぜひご参加ください!

担当：宮城県歯科医師会 総務課
 電話：022-222-5960

「令和6年能登半島地震におけるJDAT活動」(30分)

<https://youtu.be/MThY7dHaqH4>



「令和6年能登半島地震に係る宮城県JDAT活動報告 Team2」(11分)

<https://youtu.be/Zsp-CjXKrb0>



(県内歯科) 宮城県歯 JDAT 報告会 終了後アンケート

6月18日～6月24日 Google Form

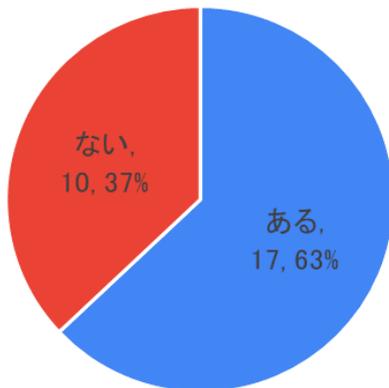
対象 60 (実地参加 21、オンライン参加 39)

所属 歯科医師会 32、歯科衛生士会 8、歯科技工士会 3、東北大学・病院 10
東北保健医療専門学校 4、仙台歯科技工士専門学校 3

資格 歯科医師 43、歯科衛生士 11、歯科技工士 6

回答 27 (45.0%) (歯科医師 19、歯科衛生士 6、歯科技工士 2)

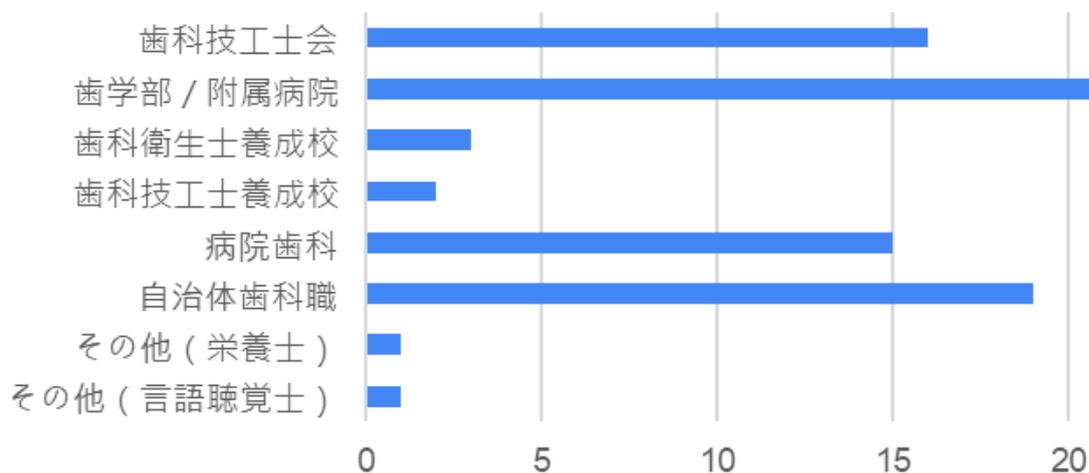
災害時の歯科保健医療支援への従事経験 (自身の被災時に自身の地域で独自に行った支援も含む)



以降、有効回答 25 (37.3%) (歯科医師 18、歯科衛生士 5、歯科技工士 2)
医療圏 石巻・登米・気仙沼 1、大崎・栗原 2、仙台 21、仙南 1

A. 宮城県外の被災に対する「被災地外からの派遣」について

歯科医師会、歯科衛生士会以外に、JDATに加わって派遣されるようになることが望ましいと考える組織や職能

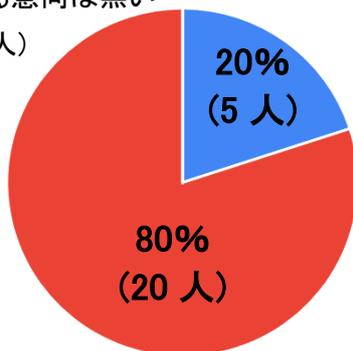


派遣に参加しやすくなる条件

- 職場や組織からの依頼や承諾が得られやすくすること（7）
職場への組織からの派遣依頼や要請、職場の承諾や理解、特別休暇などの措置、費用の支弁や補填など
- 支援活動に対する心理的なハードルを下げること（3）
支援活動に対するフォロー体制、レベルの高すぎない事前講習会の地域開催、など
- 通常業務が調整しやすくすること（2）
少なくとも2週間以上前の派遣日程決定による予約調整
- 募集内容を具体化し、募集方法を見える化すること（4）
役割や期間を明示したうえでの募集、インターネットでの公募と応募
- その他（7）
地区（ブロック）ごとに優先順位のある募集、派遣期間が短い希望への対応方法の検討、近隣であること、家族やタイミング次第、体力と年齢、組み合わせ

2024年度より、「基礎研修会（オンライン講義）」+「標準研修会（演習あり・地域開催）」となる「JDATメンバー養成研修会」に対する受講の意向

受講する意向は無い
0% (0人)

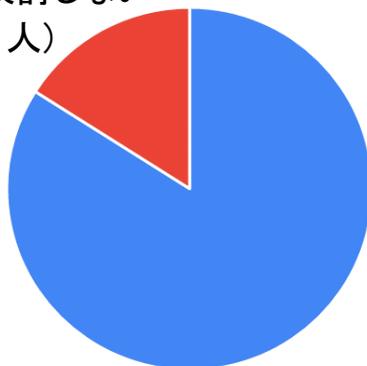


「基礎研修会」(標準テキストとオンデマンド動画)だけは、機会があれば受講してみたい

上記「基礎研修会」および、その後にある「標準研修会」(オンデマンド動画による事前研修と6時間程度の実地講義・演習)も、宮城県で開催されるのであれば受講してみたい

条件を満たす支援の募集に対する応募の検討

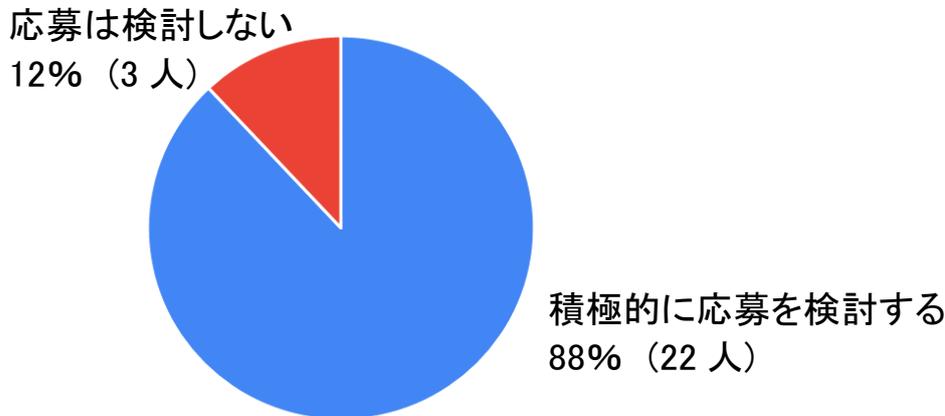
応募は検討しない
16% (4人)



積極的に応募を検討する
84% (21人)

B. 宮城県内の被災に対する「被災地における活動」について

宮城県内での被災に対して支援の募集があった場合の応募の検討



「被災地における活動」に関する体制やマニュアルの整備にあたり、特に必要と考えること

- ・ 連絡・共有の手段や体制、指揮命令系統（4）
- ・ 保険制度（2）
- ・ 組織間連携・多職種連携（3）
- ・ 平時の研修、体制構築（2）

学生教育、基本研修、登録、平時からの関係づくりと繋がり

- ・ マニュアル、優先順位づけ（2）

治療や保健衛生活動における優先順位づけの明確化

- ・ 受援体制、初動アクションカード（2）

県ごとに災害歯科保健医療支援に係る多団体での「県災害歯科保健医療連絡協議会」を組織しての体制整備が推奨されていることへの賛同

賛同する 25（100%）

その他、本報告会への感想や、その他の意見など

支援における役割分担や連携

- ・ 大規模災害時の遠方からの公助と隣県からの共助も合わせて大事かと思う。
- ・ JMATは勤務医中心で、JDATは開業医中心のメンバー構成となっている。開業医中心では遠隔地での災害にはすぐには対応できない。72時間を規定した早急の対応は、医療救護を中心としたものと、口腔ケアを中心とした後の組織と分けたが良いかと思う。
- ・ 東日本大震災や令和元年台風19号での経験では、避難されている方は歯科医師、衛生士等には直接要望、意見を出さず、地元の市町村の栄養士等が行かれた際に伝えることもままあった。その日ラウンド終わった後の多職種とのブリーフィング時に教えて頂くことがあり、それ故に地域コーディネーター、県のコーディネーターはそれぞれの防災会議に出席し、情報収集、後続派遣チームへの確実な伝達の体系の整備も必要と思う。

体制整備

- 東日本大震災および令和元年台風 19 号での歯科医療救護活動の経験から、(1) 隣接地区歯科医師会との災害時における協定（県境を越えて）、(2) 隣接県での災害時の協定、(3) 地方（東北、関東などの）災害時の協定、を締結し、移動の日数がかかる割には実働日数が少ない状況を作ることが無いほうが、参加して頂ける先生が増えると思う。
- 歯科衛生士の派遣には事業主の理解と承認が不可欠であり、現状では歯科診療所から派遣しにくい。
- 災害支援活動に歯科衛生士が積極的に参加できる体制づくりの継続が必要。
- 自身が被災した時のためにも、このような研修や経験からの知識は非常に重要と考える。一方で、「研修会に参加すると支援に行かなければならない？」ととられると、スタッフが院長一人という診療所からは研修に参加しづらい環境となる。通常の研修会の中に、災害関連の内容を少しずつ組み入れるなどして、知らぬうちに多くの人を巻き込めると良いかとも思う。

教育・研修

- 大学では災害歯科学の講義がなく、学ぶ機会がない。ぜひ歯科医師会と大学で連携して教育・訓練・派遣・協力・支援を相互的に進める取り組みを構築してほしい。
- 歯科衛生士養成校の学生達にも学生のうちから支援についての講義や演習などを受けさせられれば、支援者のすそ野が広がってゆくと思う。
- 支援活動に歯科衛生士の参加もしやすいように、研修会を宮歯主催で開催して欲しい。

その他

- このような報告会は重要だが、JDAT 派遣完了から期日が近い方が良い。
- 報告の中で、時間的制約のため被災者とお話しただけで終わったという例があった。経験からは、支援は最重要ではあるが、「話をする」「話を聴く」だけでも場合によっては被災者とその方たちの精神的な助けになると思う。

（歯科以外・県外）宮城県歯 JDAT 報告会 終了後アンケート

6月18日～6月24日 Google Form

対象 35（オンライン参加）

資格 歯科医師 20（歯科医師会 16、大学 2、病院 1、行政 1）、
歯科衛生士 10（歯科衛生士会 6、行政 2、その他 2）、他職種 5

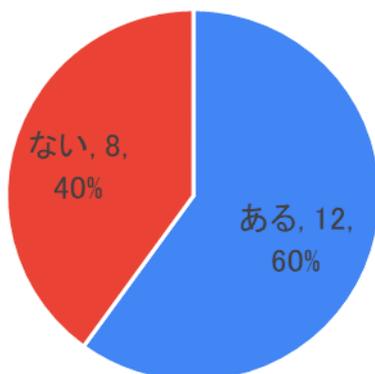
回答 20（57.1%）

歯科医師 12（京都府 3、北海道 1、石川県 2、大阪府 1、兵庫県 1、島根県 1、
愛媛県 1、長崎県 1 鹿児島県 1、

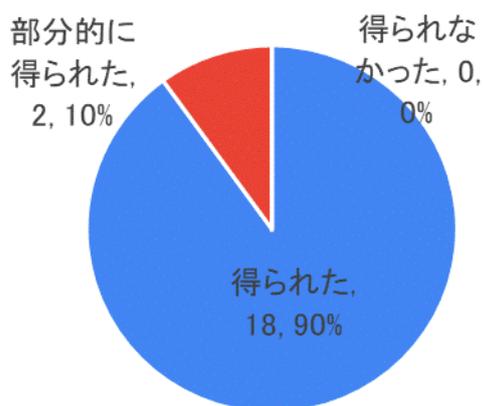
歯科衛生士 7（京都府 2、埼玉県 1、東京都 1、神奈川県 1、長崎県 1、熊本県 1）

看護師 1（宮城県）

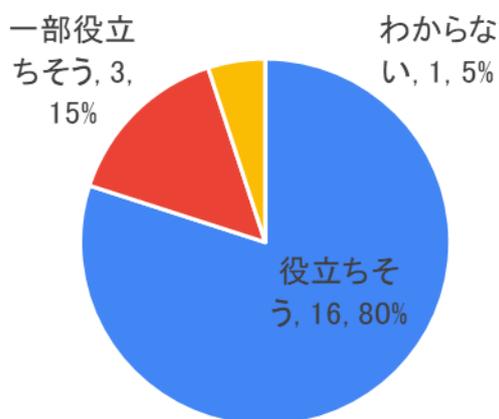
災害時の歯科保健医療支援への従事経験（自身の被災時に自身の地域で独自に行った支援も含む）



研修会から、期待された内容が得られたか



研修会から得たことは、所属組織などにおける今後の災害対策に役立ちそうか



その他、本報告会への感想や、その他の意見など

感想

- 継続していくこと、顔のつながりを日頃から持つことが大切であるとあらためて感じた。
- 講演はわかりやすく 熱も伝わってきました。医療受持者として災害でなにができるのか考えさせる機会をいただきありがとうございました。
- JDAT の活動について、能登半島地震の支援について、たくさんのことを教えていただきました。物品がない中で また口のフレイル予防について指導の大切さを教えていただきました。支援には状況の把握と情報の共有が大切で、多くの支援団体のマネジメントをどこでどうしていたのかと思いましたが、ご講演から学ぶことができました。有難うございました。
- 穴水町での支援活動の中で下出医師からの要配慮者に対する情報をどのような経緯で共有されたのか、もう少し詳しく知りたかったです。
- 能登半島地震で実際に JDAT として活動された方からの報告を、初めて聞くことができました。県外からの参加を認めていただけて、ありがたかったです。
- 他府県の皆様の具体的な支援や活動内容を拝聴できてよかったです。研修などで、知識を得たことと現実の違いなどは大きいということ、マニュアルの統一は不可欠だと思いました。貴重な報告会の視聴の機会をいただきましてありがとうございます。
- 同じ能登半島であっても、自都道府県チームの派遣先ではない他地域での状況の違いがよくわかりました。他都道府県からの受講をご快諾頂きましてありがとうございました。
- 宮城県歯科医師会・歯科衛生士会の皆さまにたいへんお世話になりました。

経験

- 2011年に南三陸町の支援に派遣され、その後毎年訪問させてもらっています。その経験を生かし、令和6年能登半島地震においても、1月末に歯科医師2名、歯科衛生士1名、歯科技工士1名のJDATとして、能登町に派遣されました。義歯修理が4件ほど有りDTに活躍してもらいました。訪問先の皆さんの心を和ませ、口腔ケアの用具の使い方などDHの活動も重要でした。宮城県歯の皆様の活動も大変参考になりました。道路状況や家屋の状況は宮城とは異なる所もありましたが、避難所での生活は、プライバシーの確保やトイレなどあまり改善されていない事を再認識しました。口腔ケア用品の配布など中心でしたが、下出医師のように摂食嚥下の調査まで手が回らず反省しております。現地コーディネーターにより活動内容も多少変わるのかなとも思いました。今後は、若い先生方が活躍されることを祈ります
- 東日本大震災当時に女川町の支援に参加した折には、研修も何もない状態で、手探りで参加していた事を思い出しました。お役に立てているのか心配でしたが、貴重な経験をさせていただいたと思っています。今回の先生方もご自分達の力と熱意を持って支援に参加されて素晴らしいと感じましたし、他の方々にも参加するハードルを低くするお手伝いのできたのではと思います。特別なスキルがなくても、日頃の診療の延長線上に支援の参加と言う事が自然に行われるような柔軟性が皆さんにはあるなと感じました。貴重な講演をありがとうございます。

体制構築

- 現在、災害支援指針や協定を作成するにあたり、実際に災害支援活動を行った先生方の生の声を聞くことができ大変参考になりました。ありがとうございます。
- 自都道府県では都道府県歯科医師会と大学（歯学部）が災害時の協定締結を進めており、今後のJDAT整備も考えて、本研修に参加させていただきました。現地で活動された皆様の貴重な経験をお聞きすることができ、とても勉強になりました。またこのような研修に参加できる貴重な機会をいただき、宮城県歯科医師会、講師の皆様にお礼申し上げます。
- 講演中にもあったように、市町村によって事情が違うことは現状当たり前のこと（しょうがないこと）だとしても、我々JDATに限らずすべての医療支援チームに求められたことが多岐にわたる、あまりにも差がありすぎると考えます。違う言い方をすると、我々JDATが準備してきたものとは違うことを求められました。今後もどんなことにも対応できる人や物を我々側が準備することは大切ですが、受援の側の市町村や県（国）も災害対策の実際の行動がバラバラすぎる、平時から訓練や他職種連携などの機会など温度差がありすぎると、受講してさらに強く感じました。行政側にも全市町村に通じる標準的な災害時行動計画があるはずなので、それに即した行動を、またそのための準備を平時から求めます。

研修

- 関西在住の30代勤務医です。歯科医師会所属の先生方のもとで働いていますが、誰も災害歯科についてご存じありません。研修会や、今回の能登半島地震関連にも参加したく自身で調べてはいたのですが、日本歯科医師会・都道府県歯科医師会のホームページでは情報が得られませんでした。開業前の近い世代で、参加希望する人はいるのですが、誰も研修会等への参加に辿り着けておりません。もし可能であれば広く周知をお願いいたします。
- 地域の歯科医師に対して、自分事としていかに災害対策研修を進捗させていくか 糸口があればと思っています。
- 災害に対することは、すべて著書や講演、研修会等でしか知識を得られない。実際に災害支援に携わった人からの声を聴くことは大変勉強になるが実技(?)が伴わない。ワークショップ等を行ってもあくまでも仮想。でもやらないよりはマシ。一人でも多くの歯科医療従事者にその経験を積んで欲しいと思っている。「被災地に行ってくれる人、手を挙げて」って言ったって自分の所の診療をいったん中止することを考えると恐らくほとんど手が挙がらない(挙げられない)、たぶん私も挙げられない。そのため都道府県歯科医師会役員や郡市区歯科医師会役員が赴くことになる。大変申し訳なく思う。だからこそ実際に行った人は、こうだった、ああだった、ここがうまくいかなかった等々、伝達して欲しいです。災害に対することは、個人、団体、住んでいる地域などで温度差があります。自都道府県でも海沿いでは危機感が高いものの内陸に行くと危機感が低いです。危機感が低い所の底上げを行うことが難しいです。

5. 第20回警察歯科医会全国大会でのポスター発表

令和6年（2024年）8月3日（土）にかめ福オンプレイス2階プリンスホール（山口市湯田温泉4-5-2）にて開催された、第20回警察歯科医会全国大会のポスターセッションにて「令和6年能登半島地震へのJDAT派遣からの体制整備」と題して発表した。

「能登半島地震関連」として8題の発表があり、うち、JDAT派遣報告が6題だった。時期や場所の異なるJDATの活動や、歯科診療車を活用した応急歯科診療活動など、また、DMORTとして出務した歯科医師による報告もあった。それぞれの発表に対し1~3題の質問があり、活発な意見交換がなされた。

宮城県歯科医師会からの報告には、「歯科衛生士の帯同を実現していくための課題と、これからの工夫は？」という質問があり、細谷仁憲会長から現状の課題とともに、歯科衛生士会との連携の強化や職場への理解を積極的に求めていくなどの対策についてコメントされた。



左から

三宅 宏之 常務理事（警察、災害歯科）

細谷 仁憲 会長

中久木 康一（東北大学大学院歯学研究科）



ポスターセッション抄録

(団体名：宮城県歯科医師会)

タイトル：令和6年能登半島地震へのJDAT派遣からの体制整備
発表者名・共同研究者名・所属： 根本充康，三宅宏之，相澤俊彦，篠原誠，宮澤幸久，佐藤真奈美，細谷仁憲（以上，宮城県歯科医師会），加藤みゆき（宮城県歯科衛生士会），中久木康一（東北大学大学院歯学研究科）
キーワード：JDAT、支援における連携、災害対応体制
<p>【はじめに】</p> <p>令和6年2月、宮城県歯科医師会は宮城県歯科衛生士会とともに能登半島地震被災地に災害歯科支援チーム（JDAT）を3チーム派遣し、志賀町と穴水町にて活動した。</p> <p>【目的と方法】</p> <p>派遣チームが現地で体験した活動から感じ・学んだことを活かし、今後起こりうる大規模災害に備え繋いでいくことを目的として、6月18日にJDAT活動報告会・災害歯科保健に関する講演会とシンポジウムを開催し、参加者にアンケートを実施した。今回のJDAT活動、および報告会でのディスカッション内容やアンケート結果より課題を整理し、今後の方針を検討した。</p> <p>【結果】</p> <p>JDAT派遣に伴う課題としては、「派遣要請からのチーム編成」「派遣決定後の準備」「活動における連携・情報共有」、などがあげられた。派遣要請を受けてからのチーム編成にはおおむね1週間を要し、実際の派遣は更に2週間後であった。また、人員が十分に確保できたとは言えず、歯科衛生士が帯同したのは3チーム中1チームとなった。派遣先市町村が決定してから実際の派遣までは1週間程度であり、先行して派遣された他県歯科医師会にアプローチして情報をいただいたのは非常に助かったが、具体的な準備をするに十分な情報とまではいえなかった。派遣の初日に、石川県歯科医師会においてインフラなどに関する情報提供をいただいたのは助かった。一方で、被災市町村や避難所の状況は日々変化していくため事前に把握することは難しく、歯科関係の支援物資はあってもばらつきがある、避難者の手まで届いていない、使用方法を理解できていない、など、直接歯科専門職が避難所で評価して対応する必要性は感じられた。避難生活も1カ月半となってくると、高齢者や障害者における感染症やフレイルの予防としても歯科保健活動が必要な時期であったが、新型コロナウイルス感染症の流行もあり、全体の方針を鑑みながらの活動となった。歯科受診機会が十分に回復していない環境下において、介入の必要性の高い避難所や施設などの情報が抽出・共有されると支援は効率的であり、公立病院耳鼻科医師からの情報は非常に有用であったが、チーム間や保健医療全体での情報共有には難もあった。</p> <p>報告会後のアンケートからは、県内外問わず、多くが災害支援時の派遣に積極的であり、JDATの研修への参加にも興味を示していた。一方で、実際に応募するには条件が整う必要があり、発災時にその対応を迅速に行うための準備の必要性が示された。</p> <p>【考察】</p> <p>今後、宮城県歯科医師会における大規模災害時の歯科保健医療活動体制の再検討・災害対応マニュアルの改定を行い、あわせて、災害歯科保健医療チーム養成の為の研修会を県内各地区歯科医師会において開催し、今後起きうる県内外の災害に整然と対応できる実践的なチーム体制を整えていきたいと考えている。</p>

6. 課題

常務理事（医療管理） 篠原 誠
大規模災害対策本部 会員救援班 班長

日本歯科医師会により開催された「令和6年能登半島地震 JDAT に係る意見交換会」（令和6年7月17日（水）web開催）の事前アンケートにおいて整理した課題を共有する。

1. 今回の JDAT 活動で良かったことや工夫したことなど

今回宮城県歯科医師会の JDAT チームとして2月5日（月）～8日（木）は志賀町、2月15日（木）～18日（日）、2月19日（月）～22日（木）までと連続した日程で穴水町にて活動させていただいたため情報の共有と引き継ぎにがスムーズに行えた。前半のチームでは歯科衛生士2名が歯科医師に同行したので避難所や施設においてより細かな対応ができた。

2. 今回の JDAT 活動で感じた課題

【日本歯科医師会】

日程を決めてチーム登録しても日歯から派遣の決定が下されるのが派遣の数日前であったので開業医は勿論、大学病院の勤務医も手を上げにくい状況だった。

【所属都道府県歯科医師会】

宮城県歯科医師会では各地区歯科医師会に対し JDAT 発足時にチーム登録をお願いしていたが、それは実態に合うものではなかったため今回は機能していないこと。今回の派遣チームは宮城県歯科医師会本部役員、宮城県歯科衛生士会役員を中心に編成された。各チームに災害研修を受けた者が1～2名配属されていたが、県外で支援を行った経験のある者はほとんどいなかったため振り返ってみるともう少し効率的できめ細かな支援ができたのではないかと反省している。

3. 上記2で感じた課題を解決するための方策

【日本歯科医師会】

日程を区切って派遣チームを募集し速やかに派遣を決定できるようなシステム作りが必要と思われる。大規模災害発災時には対策本部としては何かと大変だとは思いますが日歯のホームページメンバーズルーム等を活用し JDAT による支援状況を会員に見える化するというような工夫も必要と思われる。

【所属都道府県歯科医師会】

災害歯科研修会をなるべく多くの会員に受けてもらえるよう企画する。地区歯科医師会には実際に派遣登録可能なメンバーで JDAT 登録してもらう。

4. 今後の JDAT 活動に期待することなど、その他

必ず起こるであろう次の災害に向けてなるべく多くの会員に研修を受講してもらい JDAT の活動を理解して頂き発災時に支援に手を挙げて頂けるような体制づくりが必要と思われる。

7. あとがき

副会長 佐藤真奈美
大規模災害対策本部 副本部長

令和6年能登半島地震発生から8ヶ月が経過しました。この間、宮歯はJDAT3チームを石川県に派遣、6月には報告会兼ねて災害歯科保健に関する講演会とシンポジウムを開催し、併せてアンケート調査を実施しました。続いて7月、日歯能登半島JDATに係る意見交換会に参加、8月には警察歯科医会全国大会にてJDAT派遣報告としてポスター発表するなど、「今後の備え」「関係団体との連携」強化のため可能な限り情報提供・情報交換に努め、情報共有を図りました。その一連の活動の流れや思い、振り返りそして課題等を凝縮記録したものが本報告書であります。

ハイブリッド形式での報告会では、県内外から歯科・歯科以外問わず、多くの方々にご参加いただきまして有難うございました。加えて、終了後のアンケート調査にもご協力いただき、貴重なご意見やご感想等丁寧にご対応下さいましたこと重ねて御礼申し上げます。今後の活動に役立てて参ります。なお今般の活動には、宮城県歯科衛生士会の加藤みゆき会長はじめ歯科衛生士の皆様のご協力と、日本歯科医師会災害アドバイザーである東北大学大学院歯学研究科特任講師中久木康一先生のお口添え・お力添え等多大なるご尽力を賜りました。心から感謝申し上げます。有難うございました。

遡って令和5年秋、宮歯大規模災害対策本部会議では、令和6年度の事業計画について、平時から災害歯科保健医療活動体制を整備し、県内外からの派遣要請に迅速かつ適確に応えられるために、研修会の開催、災害時の協力歯科医・歯科衛生士・歯科技工士等の事前登録、そして宮城県歯科保健医療連絡協議会設置・運営へ進めていくと、議論が交わされていたところでした。その矢先、能登半島地震が発生。災害は待ったなし！です。

私達はかつて、東日本大震災において医療救護活動(当時の名称)及び身元確認作業で、全国から駆け付けて下さった実に多くの先生方の支援活動に支えられました。「今度は私達の番。当時の感謝の気持ちをこめて被災地へ！」の思いで派遣チーム編成にあたりましたが、宮歯にとって他県へのチーム派遣は初めての試み。そこでは日頃から物心両面での備え、他団体との密な連携が重要であることを痛感した次第です。なお、宮歯ホームページ内には、東日本大震災報告書Ⅰ、Ⅱも掲載しておりますので、そちらも併せてご覧いただけますと幸甚です。

今後は、これまで得た教訓を無駄にせず、今後「備える」「繋げる」「活かす」ことを念頭に未来にフォーカスし、宮城県歯科医師会における大規模災害時の歯科保健医療活動体制の整備・災害対応マニュアルの更新、あわせて災害歯科保健医療活動登録会員の増加対策を実施して参りたいと考えております。

結びに、皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

令和6年能登半島地震 JDAT 活動報告書

発行 令和6年9月1日

発行者 一般社団法人宮城県歯科医師会

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町一丁目5番1号

TEL (022) 222-5960

FAX (022) 225-4843

<http://www.miyashi.or.jp/>

作成・編集：

細谷 仁憲、佐藤 真奈美、宮澤 幸久、根本 充康、篠原 誠、相澤 俊彦

加藤 みゆき（宮城県歯科衛生士会）

中久木 康一（東北大学大学院歯学研究科）